

中国地域の経済動向

(2025年11月の指標を中心に)

～持ち直しの動きの中で一部弱含んでいる～

2026年1月22日

(本発表資料のお問合せ先)
総務企画部企画調査課長 中野 伸二
電話：082-224-5633
メール：bzl-chugoku-chosa@meti.go.jp

～判断の推移～

2025年12月（10月指標中心）		2026年1月（11月指標中心）
基調判断	持ち直しの動きの中で一部弱含んでいる	⇒
1. 生産動向	緩やかな持ち直しの動きがみられる	⇒
2. 個人消費	持ち直しの動きに足踏み感がみられる	⇒
3. 雇用	有効求人倍率は前月に比べ低下、新規求人数は前年同月比で減少	⇒
4. 景況感	現状、先行きともに前月に比べ上昇	現状は前月に比べ上昇、先行きは低下
5. 貿易	輸出は前年同月比で減少、輸入は増加	輸出は前年同月比で増加、輸入は減少
6. 建設動向	公共工事は前年同月比で減少、住宅建設は前年同月比で増加	公共工事、住宅建設ともに前年同月比で減少
7. 企業倒産	件数、負債総額とも前年同月比で増加	件数、負債総額とも前年同月比で減少
8. 設備投資	2025年度計画は前年度を上回る見込み	⇒

1. 生産動向 ~緩やかな持ち直しの動きがみられる~

2025年11月の鉱工業生産指数は102.2、前月比▲0.1%の低下となった（2020年=100、季節調整済）。出荷は上昇、在庫は低下、在庫率は上昇となつた。

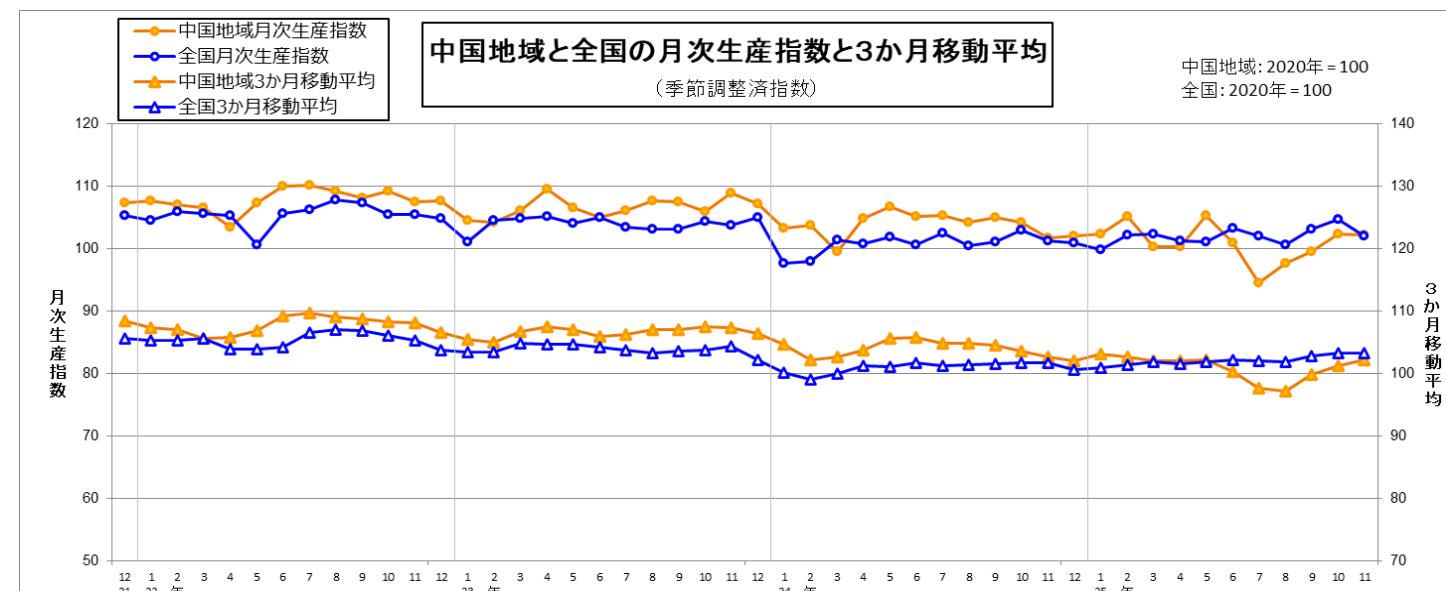
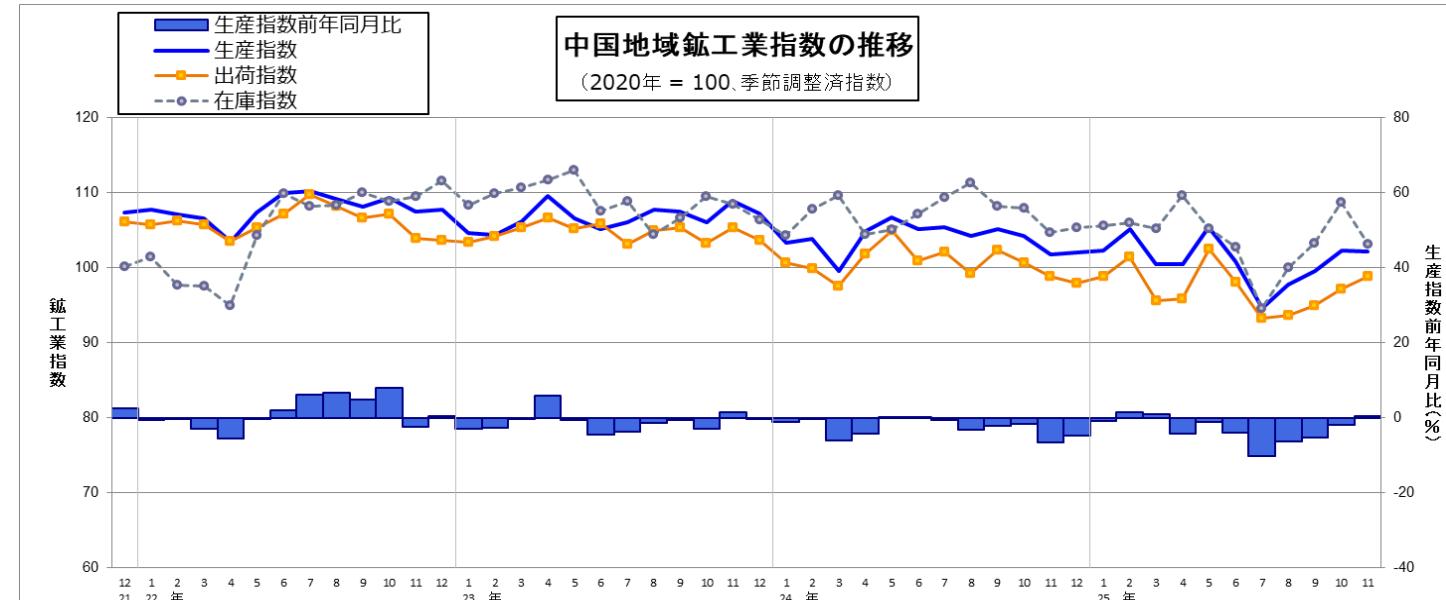
生産を業種別にみると、電子部品・デバイス工業、生産用機械工業、自動車（乗用車・トラック・主要部品）などが上昇し、汎用・業務用機械工業、食料品・たばこ工業、化学工業（除。医薬品）などが低下した。

【主要業種の動向】

自動車（乗用車・トラック・主要部品）は、モデルチェンジした一部車種の増産により引き続き水準が上昇傾向。

汎用・業務用機械工業は、海外向け大型機械の生産減少により低下したものの、高い水準で推移。化学工業（除、医薬品）は、需要見合いの生産により低い水準で推移。

[詳細データはこちから](#)



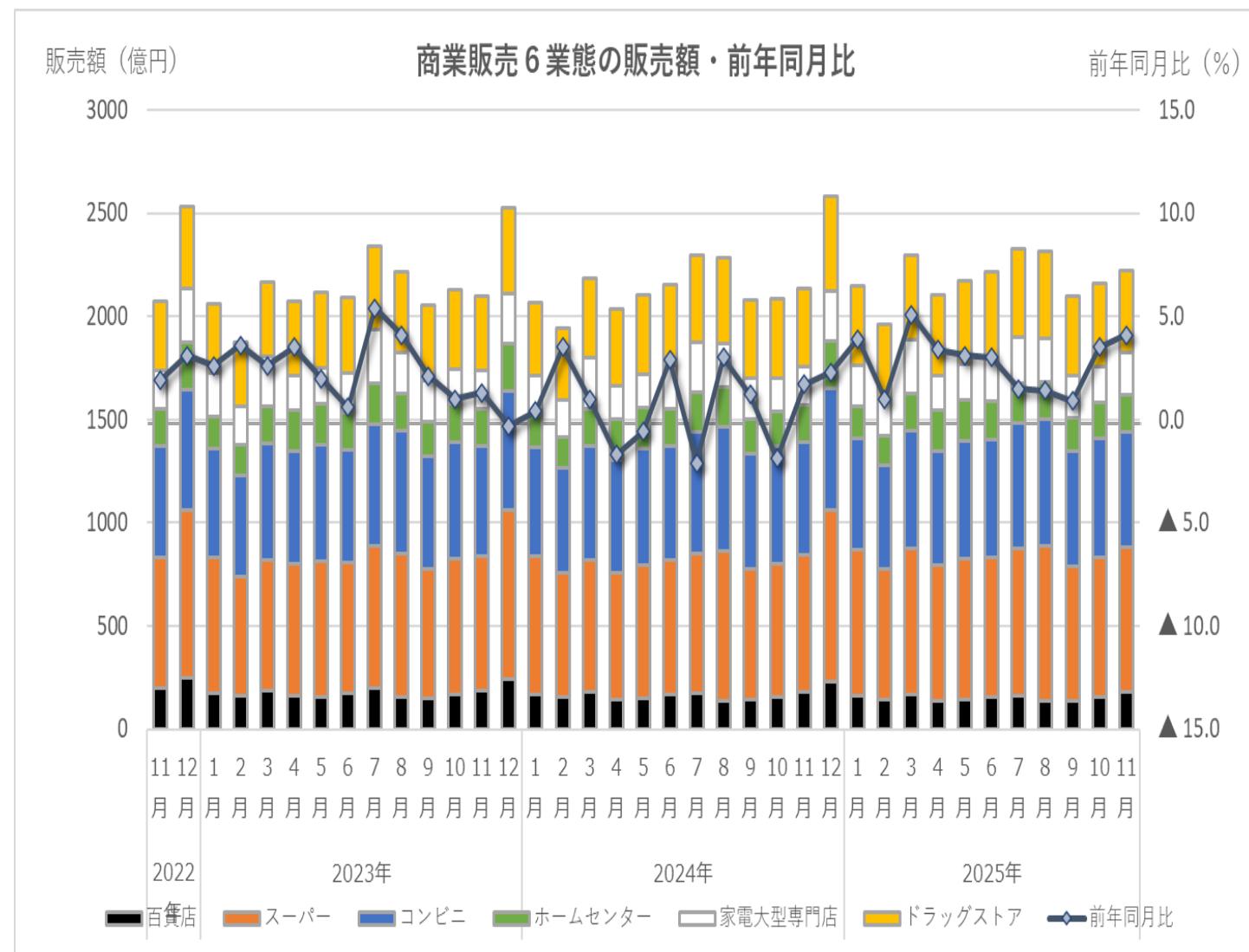
2. 個人消費 ~持ち直しの動きに足踏み感がみられる~

2025年11月の商業6業態の販売額は2,225億円で、前年同月比4.1%と13か月連続で前年を上回った。

	6業態における構成比 (%)	販売額 (百万円)	前年同月比	前月の 前年同月比
6業態		222,459	4.1 13か月連続プラス	3.5
百貨店	8.1%	18,055	1.2 2か月連続プラス	1.8
スーパー	31.4%	69,923	5.5 13か月連続プラス	5.0
コンビニエンスストア	25.3%	56,235	3.0 2か月連続プラス	1.2
ホームセンター	8.1%	18,017	▲ 0.2 4か月連続マイナス	▲ 0.9
家電大型専門店	9.1%	20,213	6.2 4か月連続プラス	10.5
ドラッグストア	18%	40,016	5.8 47か月連続プラス	4.4

	店舗数	前年同月比
百貨店	12	0.0 %
スーパー	339	3.0 %
コンビニエンスストア	3,052	▲ 0.1 %
ホームセンター	401	0.0 %
家電大型専門店	177	0.6 %
ドラッグストア	1,068	2.4 %

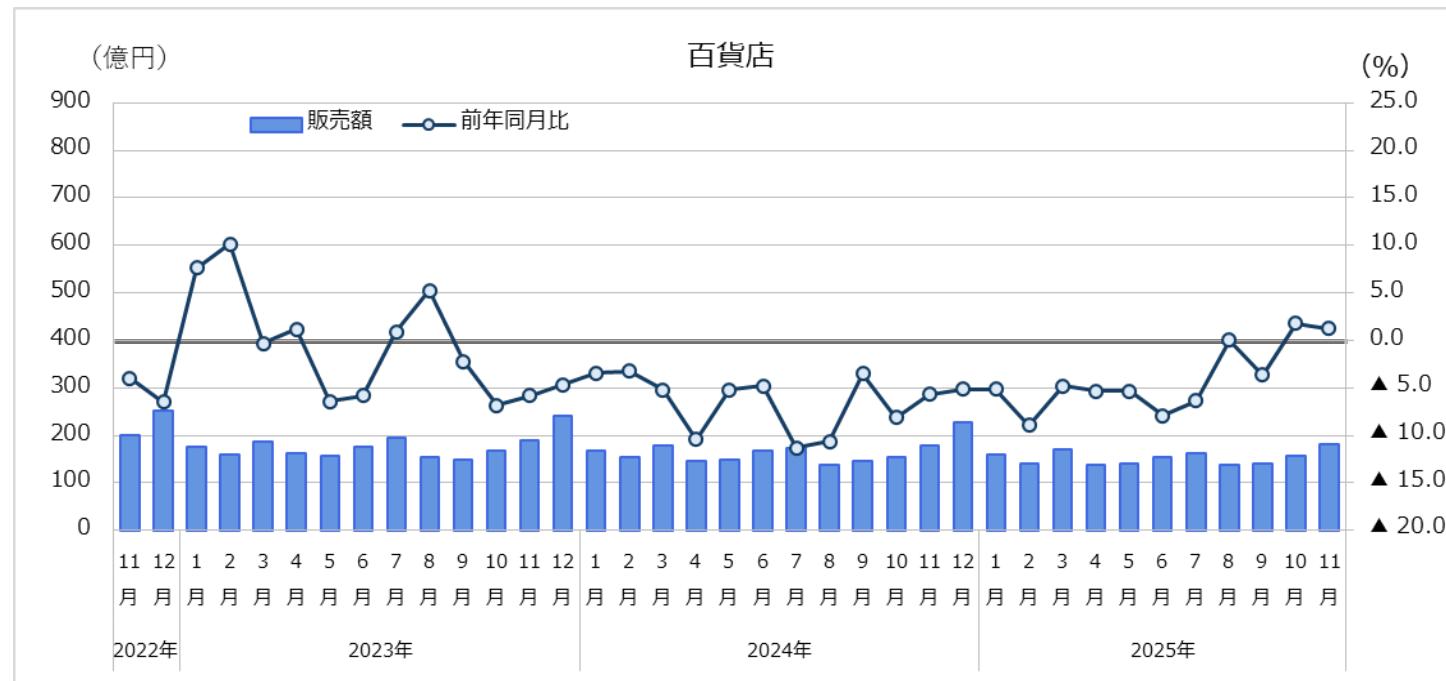
その他のデータはこちらから



2. 個人消費

(1)百貨店の状況

ラグジュアリーのハンドバッグや金製品などの高額品が好調だったほか、化粧品による動きがみられた。また、気温低下により冬物の衣料品が好調だった。そのほか、飲食料品は価格上昇により精肉や鮮魚が低調だったが、催事は好調だった。



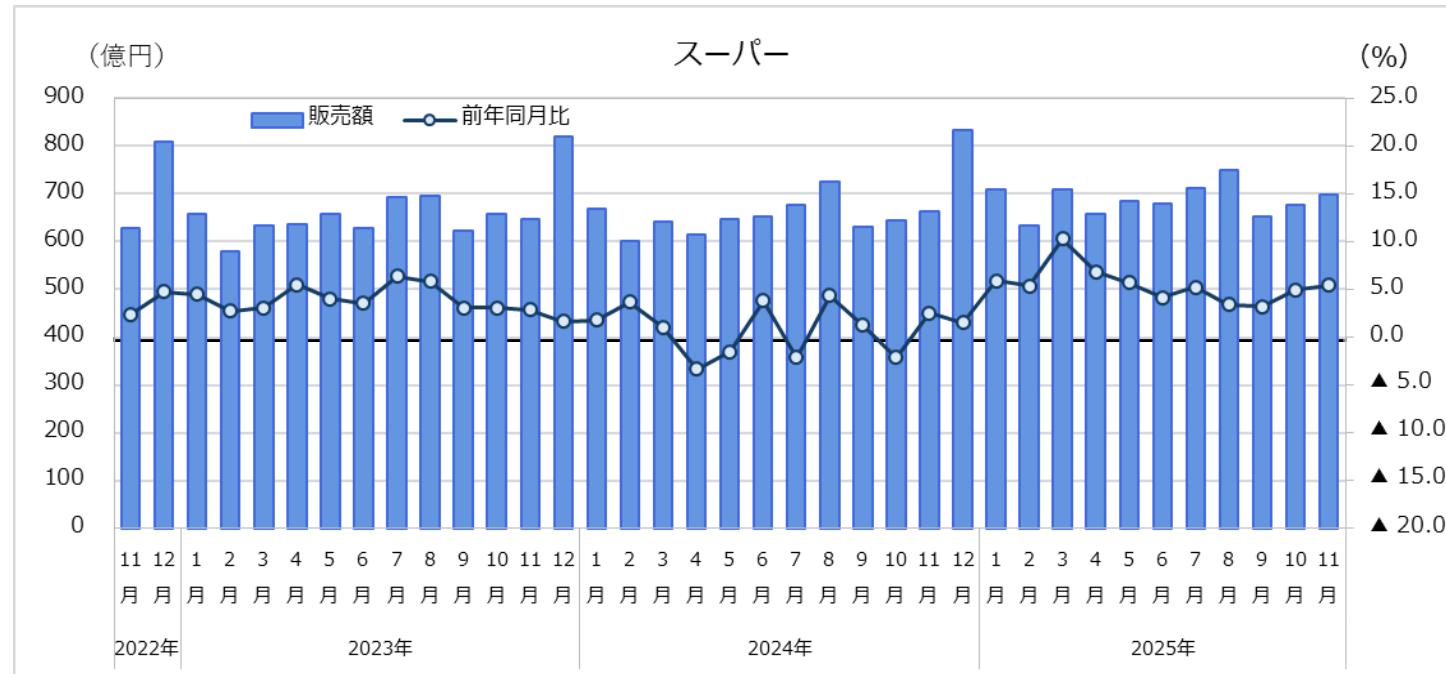
(2)スーパーの状況

休日が2日多い曜日まわりのほか、ブラックフライデーの販売促進効果で売上が押し上げられた。また、価格上昇により米や卵、コーヒーの売上が増加した一方、水揚げ量の少なかった牡蠣は低調だった。そのほか、インフルエンザの流行によりマスクが好調だった。

詳細データはこちらから



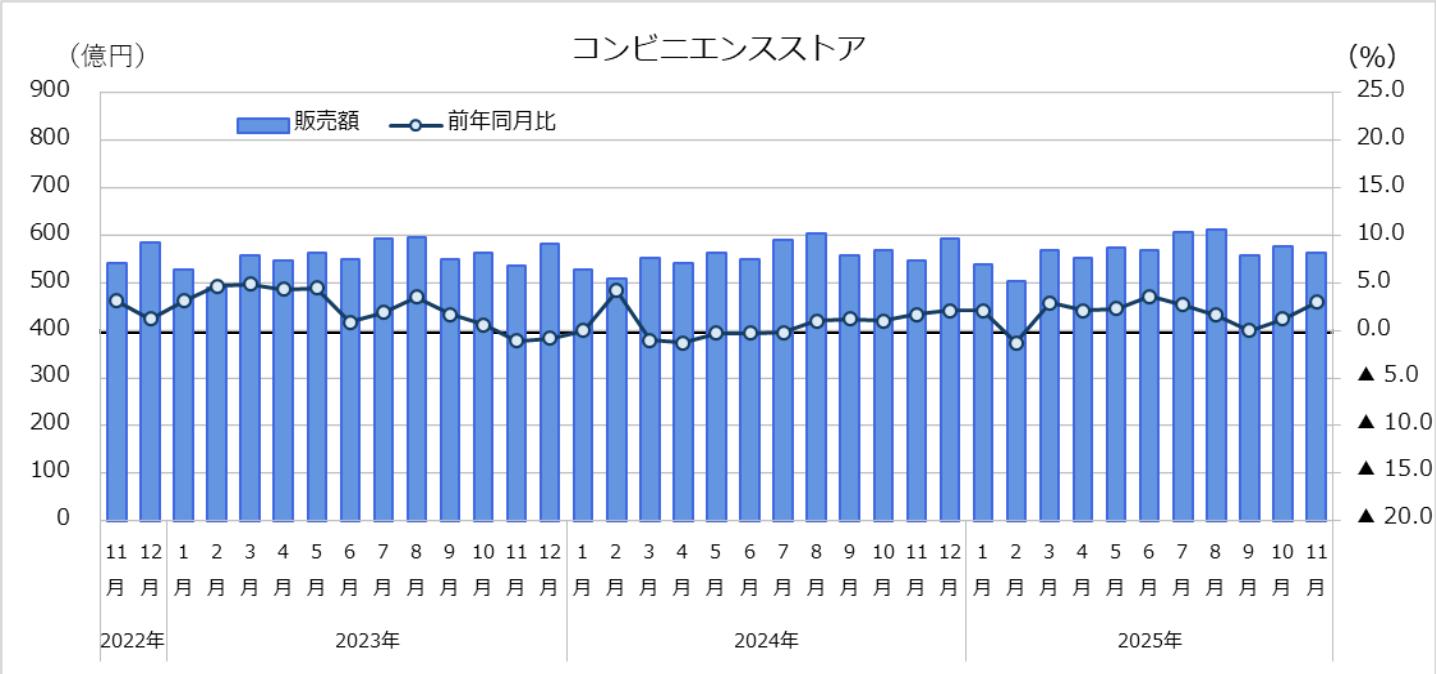
(資料) 「商業動態統計調査」(経済産業省)
「中国地域百貨店・スーパー販売動向」(中国経済産業局)



2. 個人消費

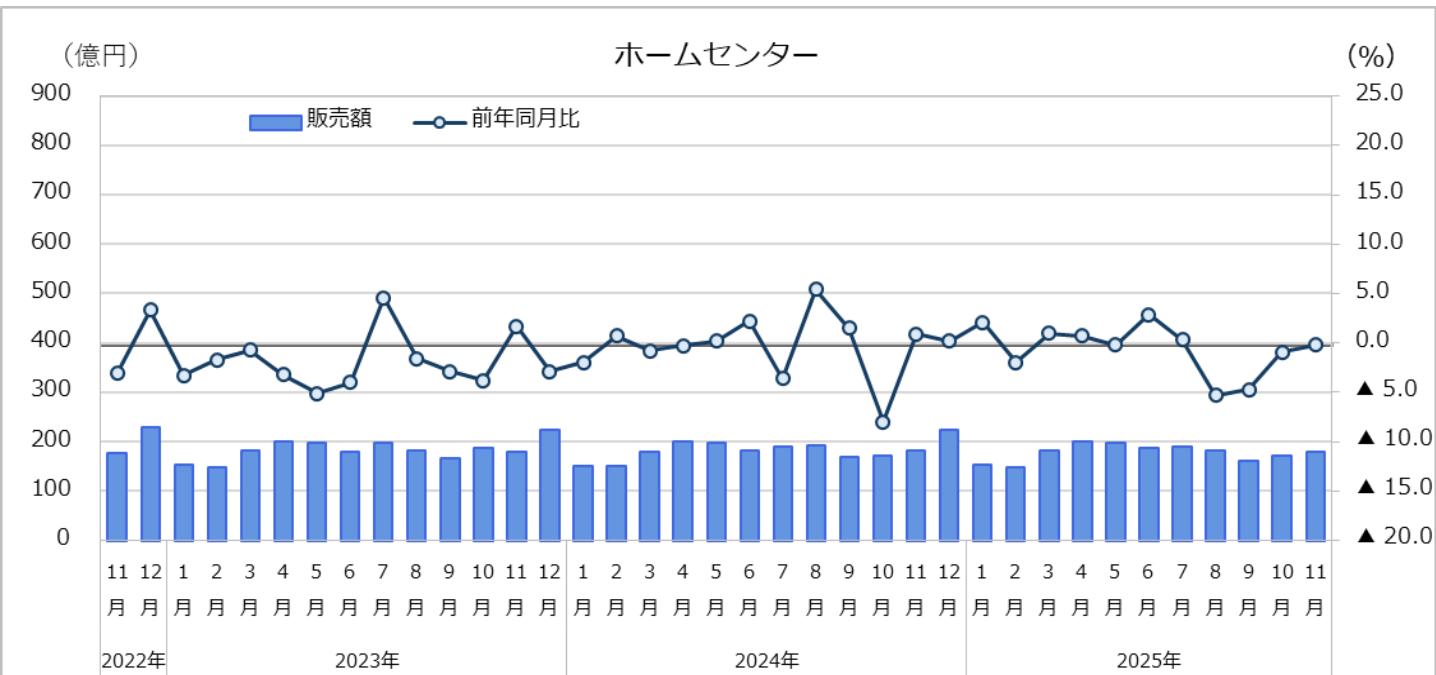
(3)コンビニエンスストアの状況

販売促進効果によりおにぎり、揚げ物が好調だったほか、価格上昇により菓子が好調だった。一方、物価高による節約志向の高まりで弁当などの高価格商品の動きが鈍かった。



(4)ホームセンターの状況

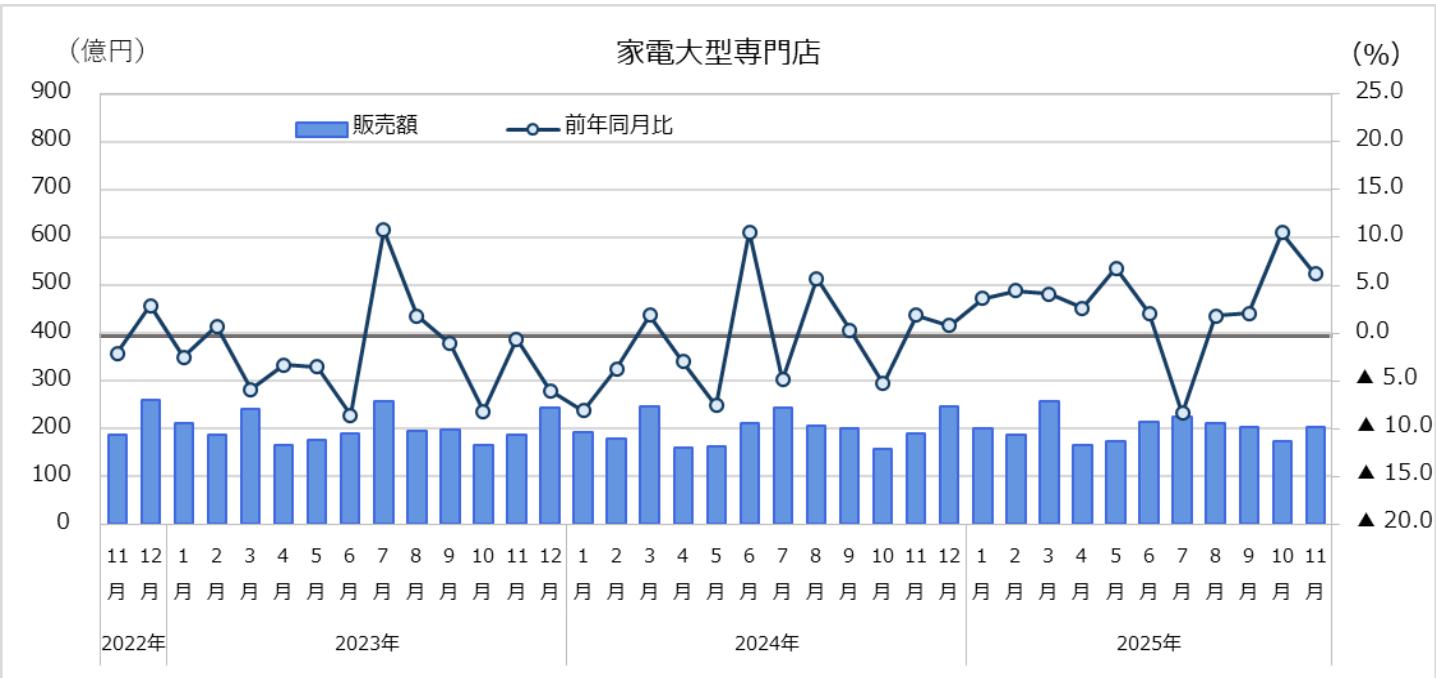
物価高による節約志向の高まりで寝具や敷物などのインテリア、塗料や工具などのDIY用具が低調だった。一方、気温低下により秋植え用の植物や園芸用品が好調だったほか、灯油や冬用作業着にも動きがみられた。そのほか、価格上昇により米の売上が増加した。



2. 個人消費

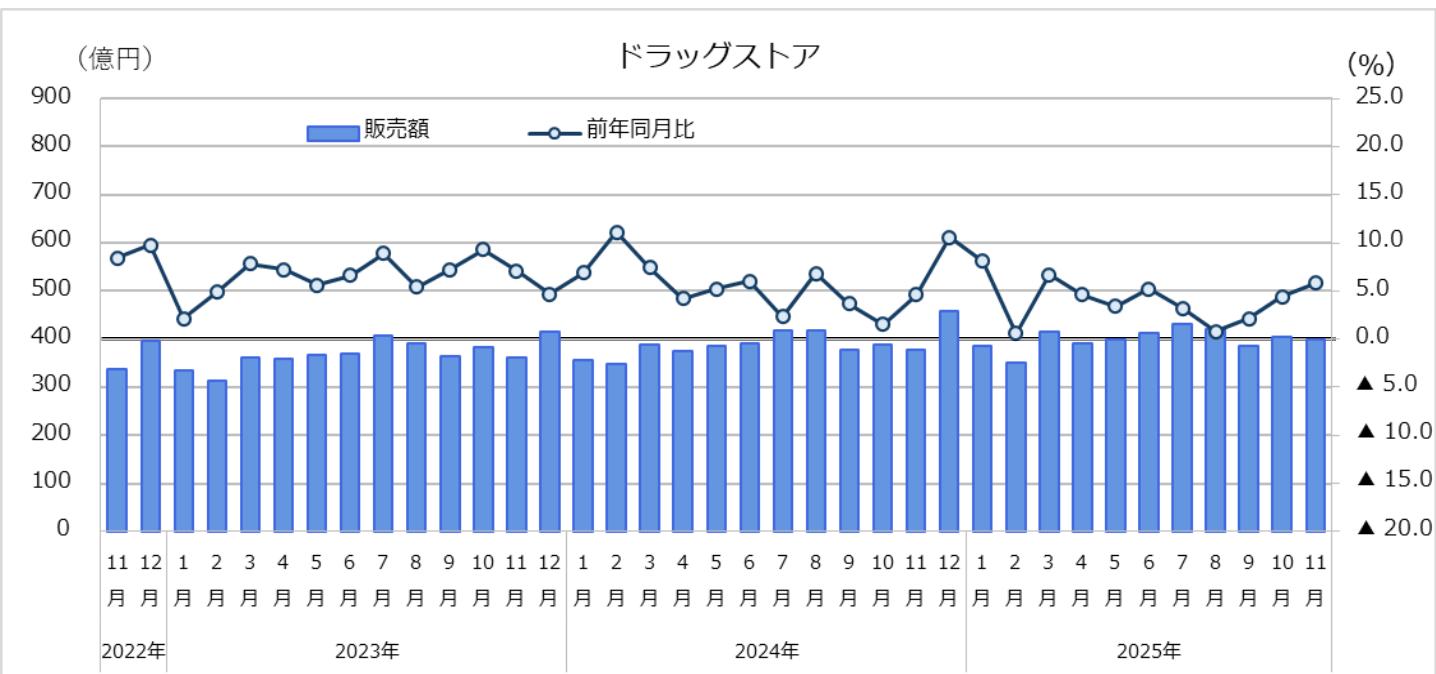
(5) 家電大型専門店の状況

伸び幅は鈍化したものの、OSのサポート終了に伴う買い換え需要で引き続きパソコンが好調だった。また、気温低下によりエアコンが好調だったほか、携帯電話による動きがみられた。



(6) ドラッグストアの状況

販売促進効果と価格上昇により米、菓子、飲料の売上が増加した。また、気温低下により基礎化粧品やリップ、ハンドクリーム、ボディケア用品が好調だった。そのほか、インフルエンザの流行により総合感冒薬や検査薬が好調だった。



2. 個人消費

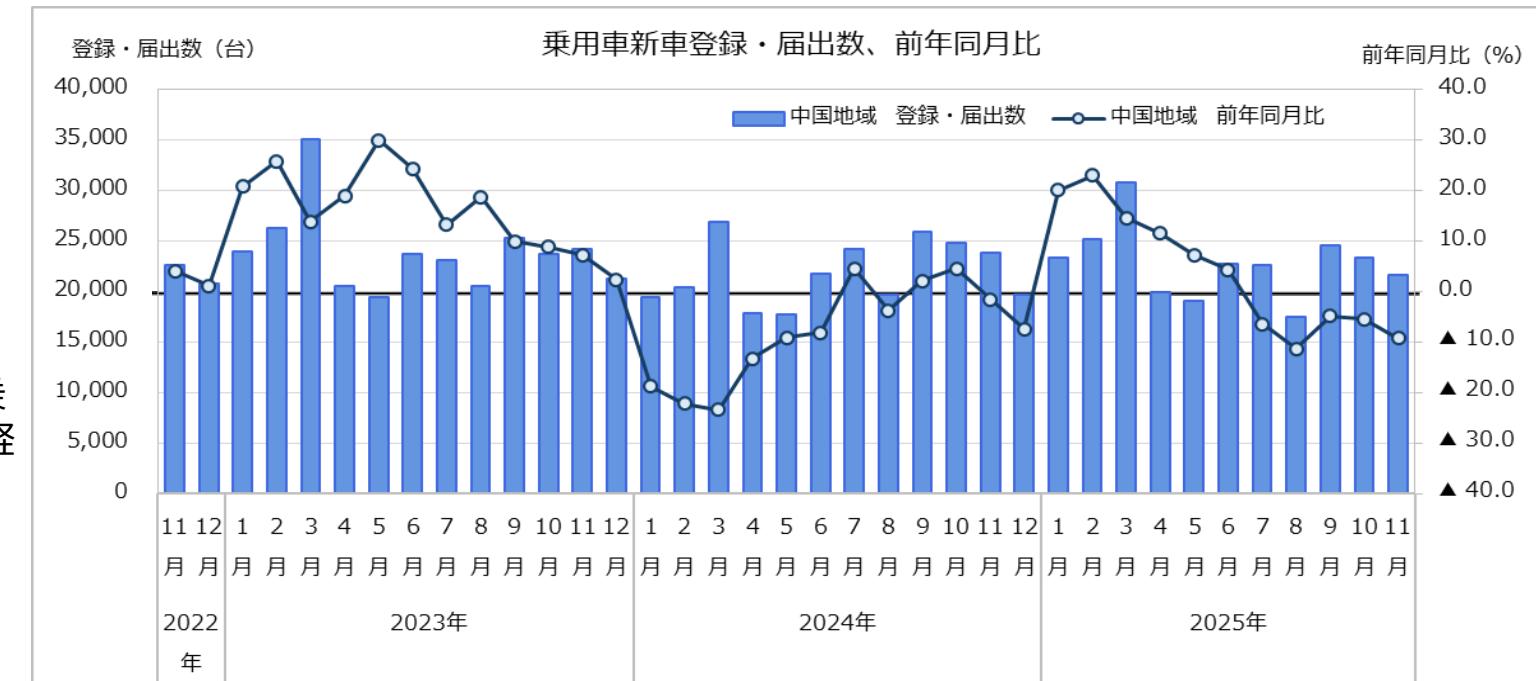
●乗用車新車登録・届出数

2025年11月の乗用車新車登録・届出数は、小型乗用車が前年同月を上回ったものの、普通乗用車、軽乗用車が前年同月を下回り、合計では前年同月比▲9.2%と5か月連続で前年を下回った。

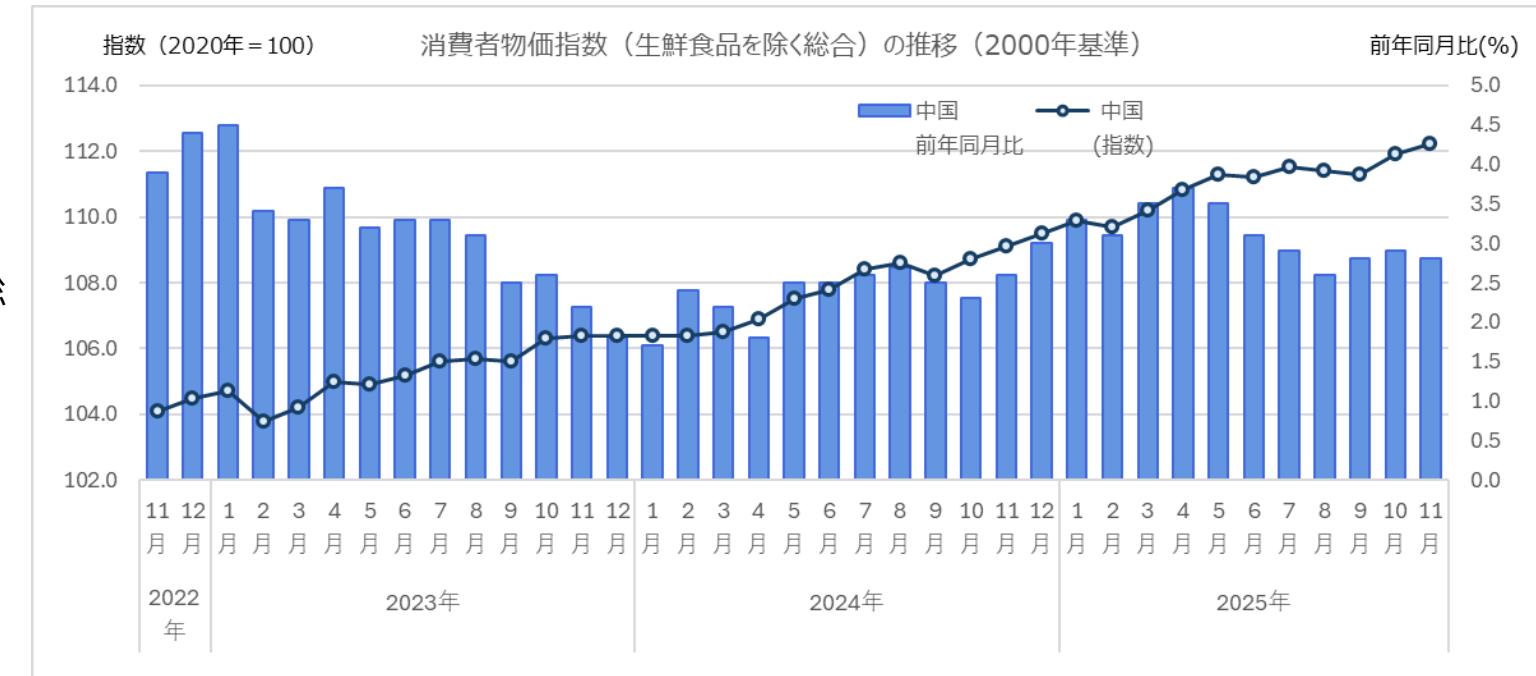
(資料) 中国運輸局資料をもとに中国経済産業局作成

●消費者物価指数（中国地域）

2025年11月の消費者物価指数（生鮮食品を除く総合指数）は前年同月比2.8%の上昇となった。

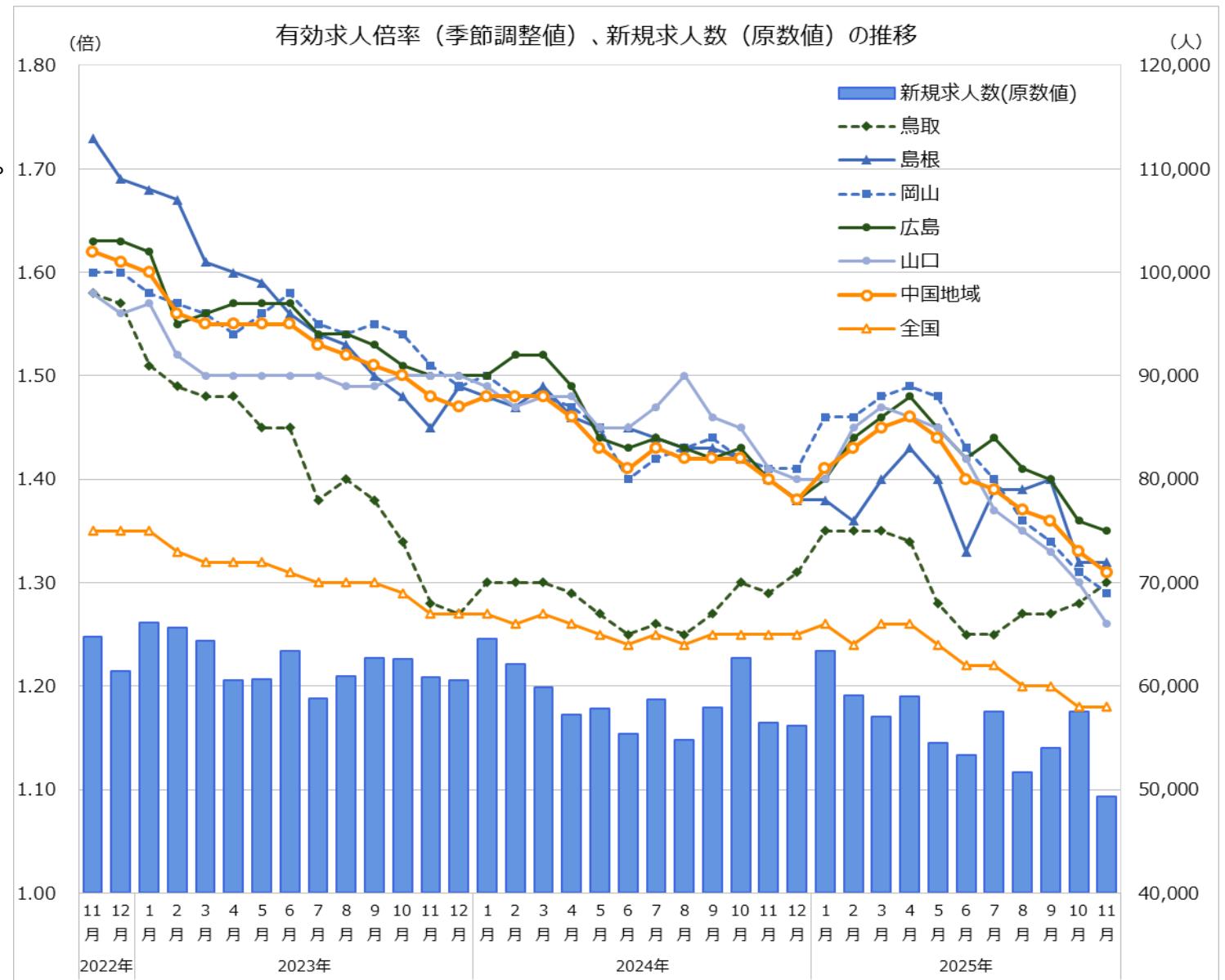


(資料) 「消費者物価指数」（総務省）



3. 雇用 ~有効求人倍率は前月に比べ低下、新規求人数は前年同月比で減少~

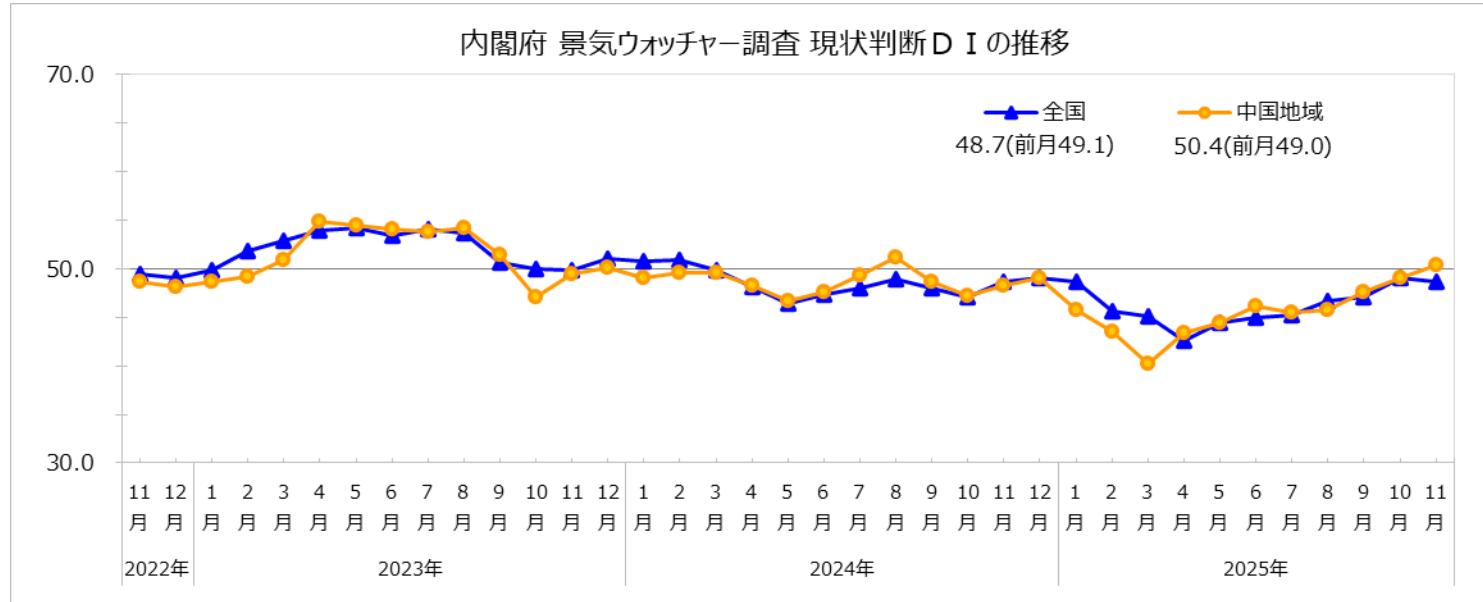
2025年11月の有効求人倍率は、1.31倍で前月の値を0.02ポイント下回り、7か月連続の低下となった。また、新規求人数（原数値）は、前年同月比▲12.5%で7か月連続の減少となった。



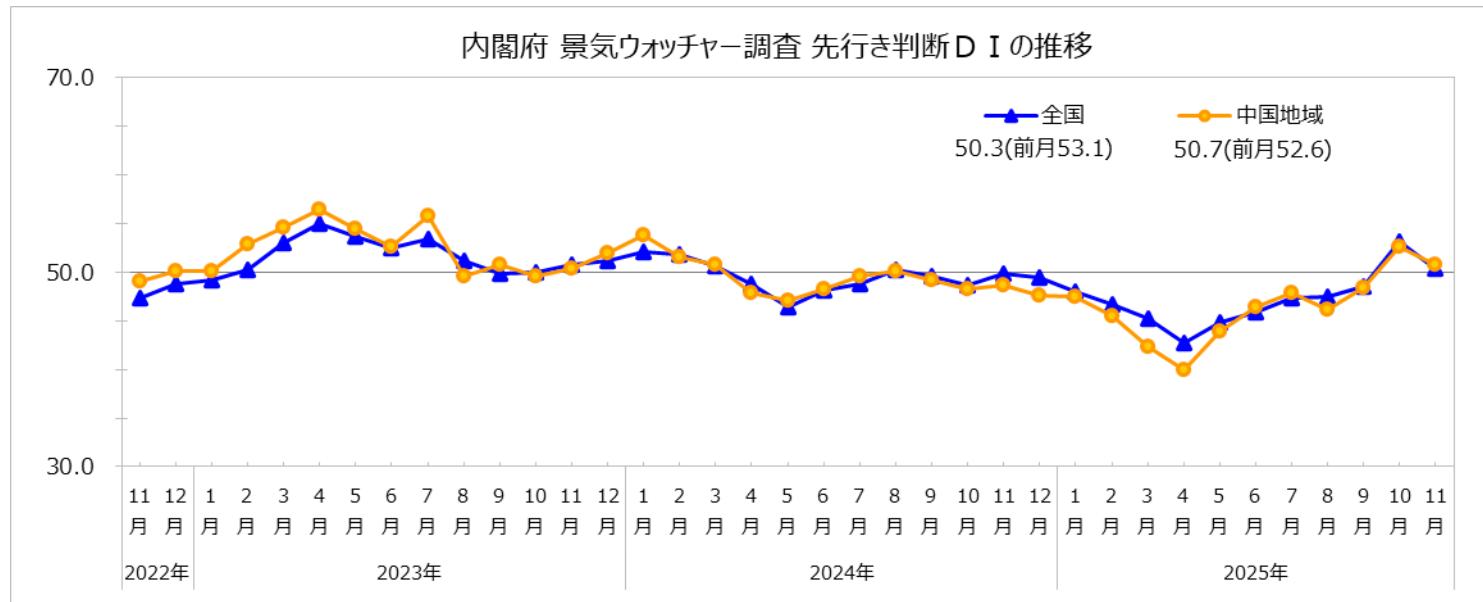
(資料) 「一般職業紹介状況(職業安定業務統計)」(厚生労働省)

4. 景況感 ~現状は前月に比べ上昇、先行きは低下~

内閣府の景気ウォッチャー調査（令和7年11月調査結果）によると、中国地域の3か月前と比較しての景気の現状に対する判断D I（方向性）は50.4となり、前月差1.4ポイントの上昇となった。

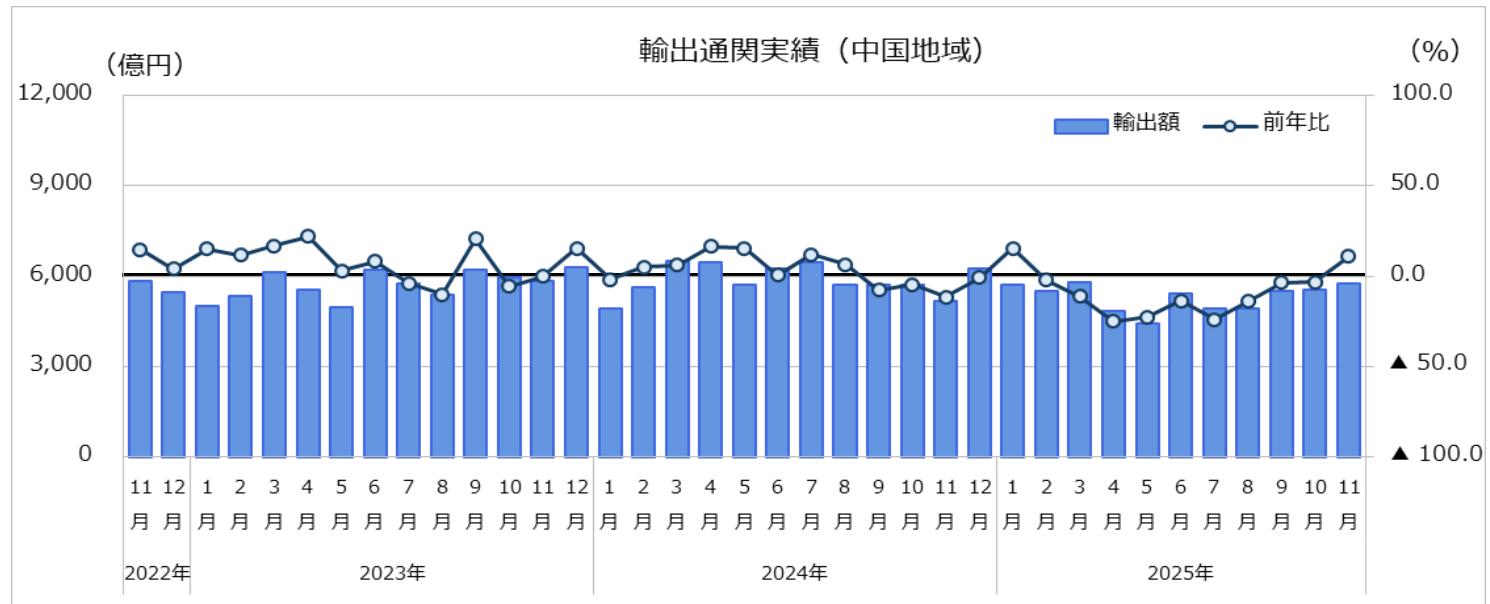


2～3か月先の景気の先行きに対する判断D Iは50.7となり、同1.9ポイントの低下となった。

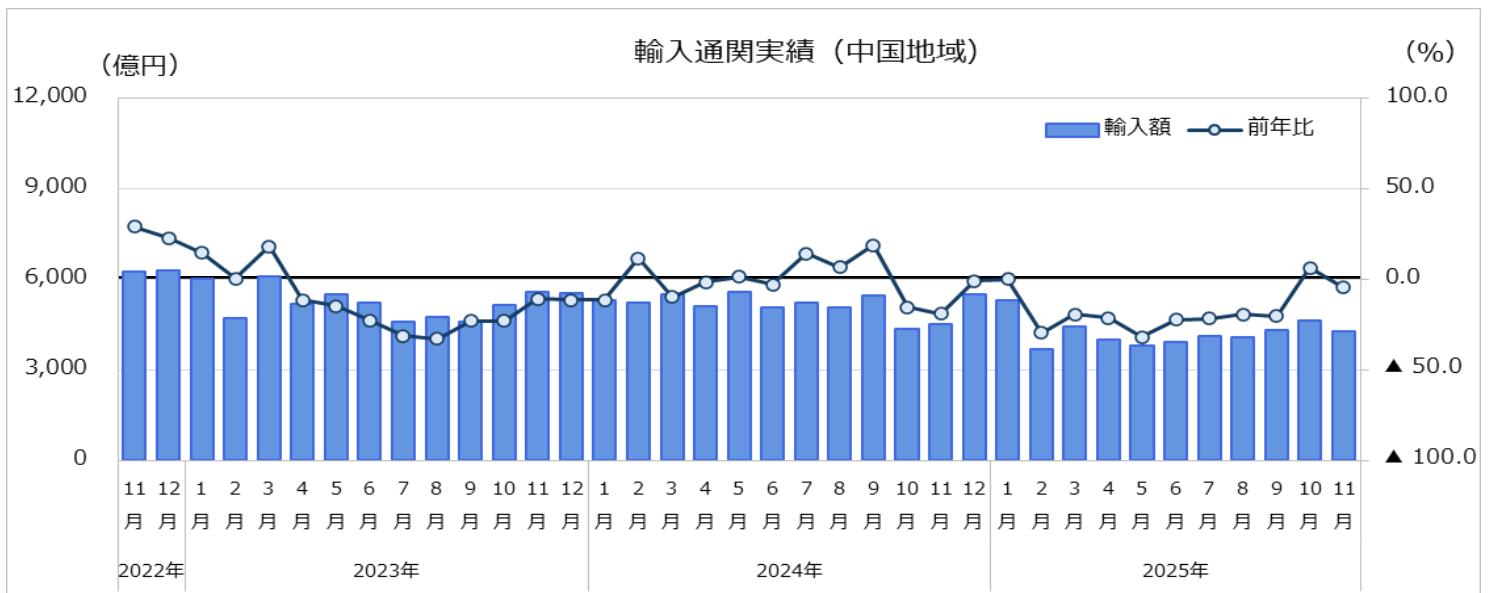


5. 貿易 ~輸出は前年同月比で増加、輸入は減少~

2025年11月の輸出は、前年同月比10.8%と10か月ぶりに前年を上回った。
品目別では、船舶、自動車などが前年を上回った。
地域別では、北米、アジア向けなどが前年を上回った。



2025年11月の輸入は、前年同月比▲4.8%と2か月ぶりに前年を下回った。
品目別では、石炭、原油及び粗油などが前年を下回った。



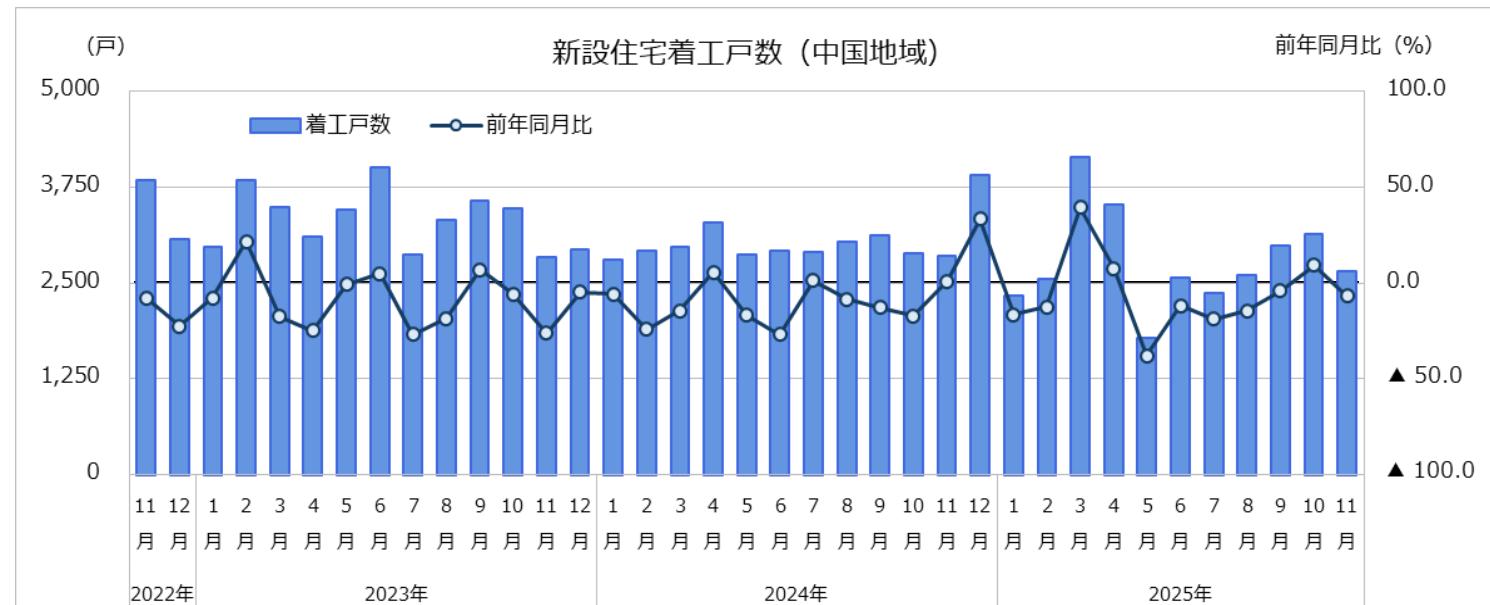
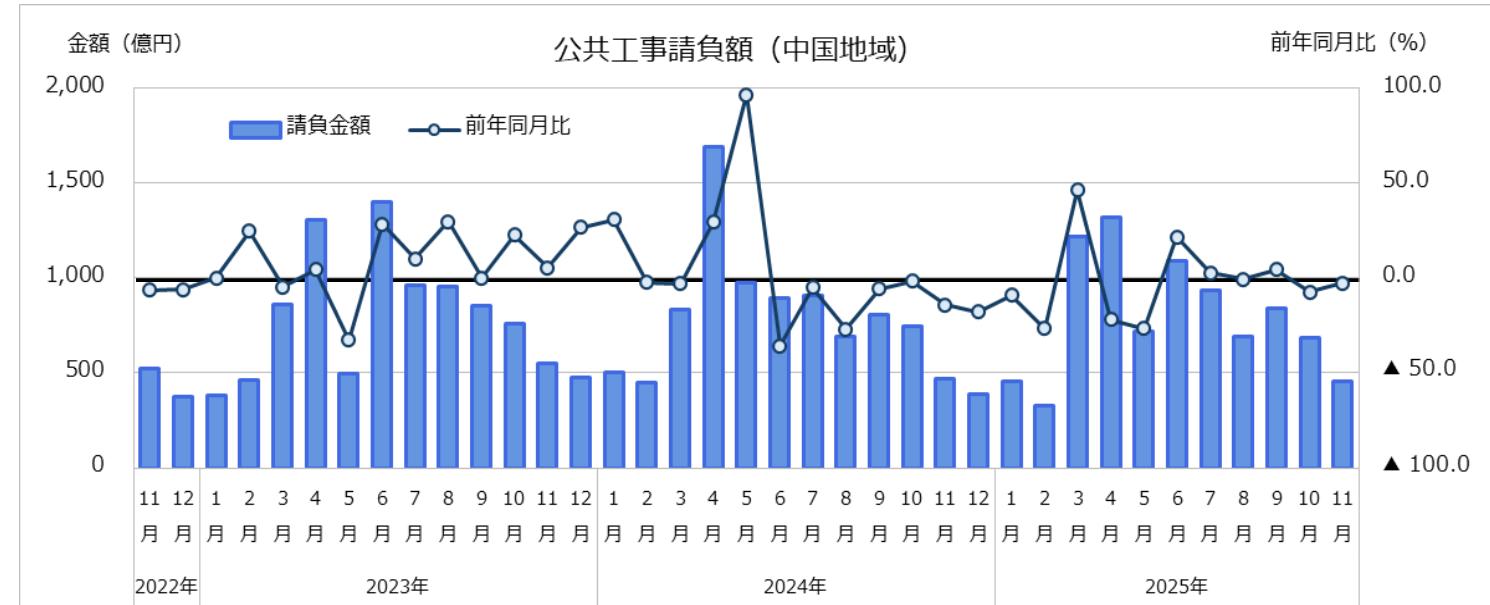
6. 建設動向 ~公共工事、住宅建設とともに前年同月比で減少~

2025年11月の中国地域の公共工事請負金額は、独立行政法人等、その他公共的団体で前年を上回ったものの、国、県、市町村で前年を下回った。合計では前年同月比▲2.9%と2か月連続で前年を下回った。

(資料) 西日本建設業保証(株)広島支店

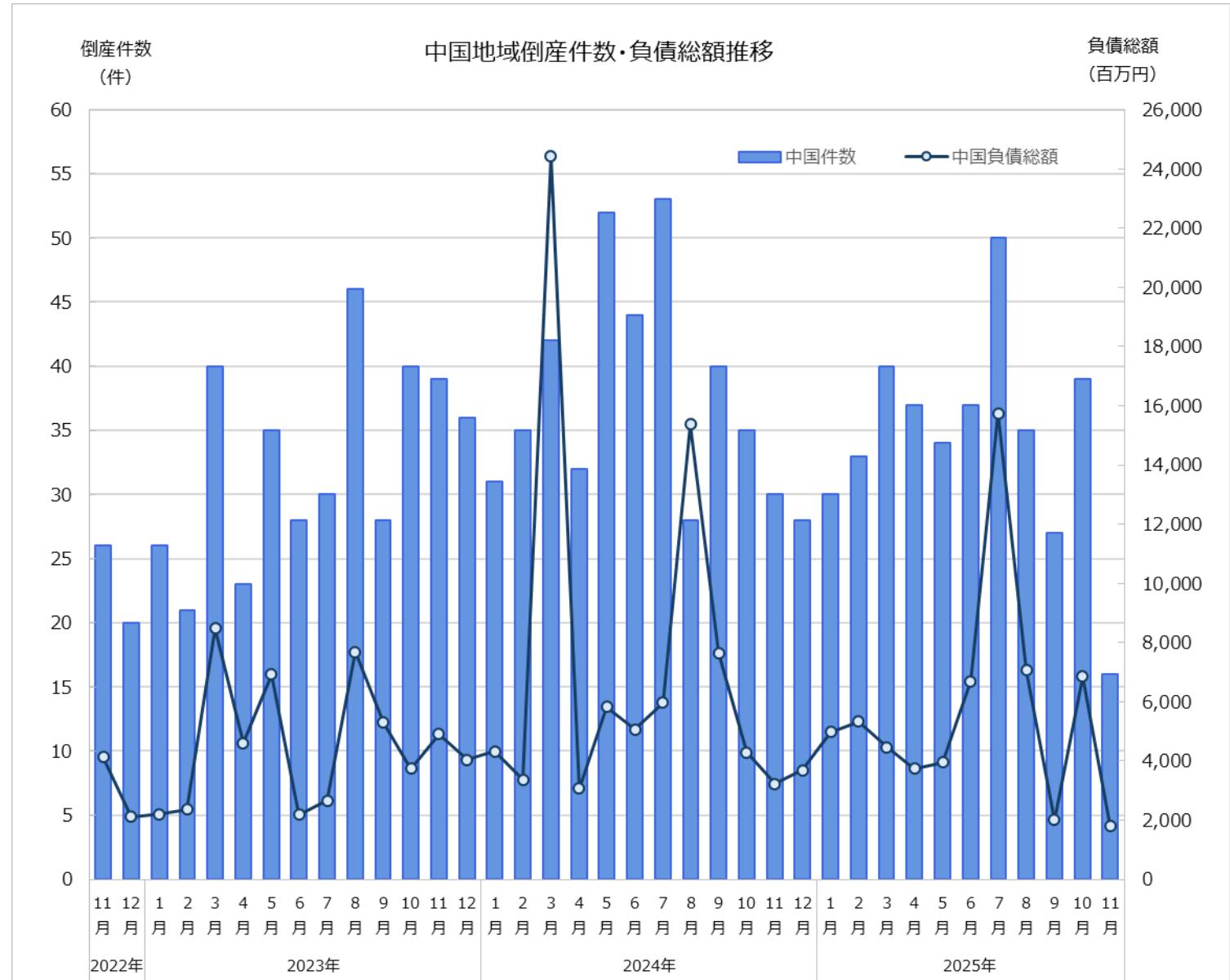
2025年11月の新設住宅着工戸数は、貸家で前年を上回ったものの、持家、給与住宅、分譲住宅で前年を下回った。合計では前年同月比▲6.9%と2か月ぶりに前年を下回った。

(資料) 「建築着工統計調査報告」(国土交通省)



7. 企業倒産 ~件数、負債総額とも前年同月比で減少~

2025年11月の企業倒産件数は16件で、前年同月比▲46.66%と2か月ぶりに前年を下回った。また、負債総額は18億700万円で、前年同月比▲44.09%と2か月ぶりに前年を下回った。業種別にみると、建設業が5件、卸売業及びサービス業他が3件、製造業及び小売業が2件などとなった。原因別にみると、販売不振が12件、既往のシワ寄せが3件、その他が1件となった。



(資料) 「中国地区企業倒産状況」 ((株)東京商エリサーチ)

8. 設備投資～2025年度計画は前年度を上回る見込み～

日本銀行広島支店の企業短期経済観測調査結果(2025年12月)によると、2025年度の設備投資計画(含む土地投資額)は、製造業が前年度比27.7%、非製造業が同▲6.1%となり、全産業では同10.1%となっている。

(注) 横軸に初回調査（3月調査）から実績が確定する翌年6月調査までの6回調査を取り、毎年度の設備投資計画について、調査回毎の前年比の足取り（修正パターン）をグラフで示したもの。

